

閉会挨拶（7月19日）

運輸総合研究所主席研究員・研究統括の藤崎です。閉会に当たり一言申し上げます。

まず、御来賓の御挨拶を頂いた国土交通省総合政策局長の鶴田様、基調講演とパネリストとしての御参加を頂いた筑波大学の石田先生、モデレーターをしていただいた筑波大学の谷口先生、そして、パネリストとして御参加いただいた、計量計画研究所の牧村先生、自動車ジャーナリストの桃田先生、前富山市長の森先生に厚く御礼申し上げます。また、長時間にわたり御参加いただいた多数の皆様、共催頂いたTTPU、後援頂いた日本交通計画協会、協力頂いたSIP第3期IBSコンソーシアム、そして当研究所の活動を支援いただいている日本財団に改めて御礼を申し上げます。

本日のセミナーの中で、三重野客員研究員から報告がありました研究調査の成果について、一つだけ、触れたいと存じます。即ち、本日の報告及び先月発刊された書籍で言及があります、「顔の見えるモビリティ」という言葉については、調査の対象となったフランス等の現地で必ずしも使われているというわけではなく、現地調査をした、三重野先生や当時日本航空から出向でいらした矢内研究員（本日会場にお見えですが）等の当研究所の研究チームが、現地の良き特徴の

一面を皆様にどう伝えたらよいかと真剣に考えた結果、編み出した言葉と私は理解しております。それから、この研究調査は、当研究所が従来取組んできた領域をまちづくり及び道路の方に拡げるもので、これを機会に、また、この研究成果が政策立案を含む実務社会に活用されるよう、当研究所としてもこのような分野の方との連携も意識しつつ、関連の研究調査に今後も更に取り組む機会を模索して参りたいと存じます。

本日の終了後に参加者の皆様に、本日のセミナーのテーマに関連する質問も含めたアンケートを実施いたしますので、回答記入に協力頂けますよう、どうぞ宜しくお願いいたします。

私からは以上です。この後、事務局から今後の予定のお知らせがあります。

本日は、最後までご参加いただき、誠にありがとうございました。